

特集

「母性」「小児」「老年」の概念を変える

家族の ダイバーシティ

「お父さんとお母さんと子ども 1, 2 人で全員同戸籍」というのが家族の標準とする見方があります。しかし、上記の構成員のいずれかがいない家族は珍しくありませんし、戸籍を基準とした形態ばかりが家族でもありません。“標準”という考え方は、そこに準じないものを意識的にあるいは無意識に排除しがちですから、注意する必要があります。

さて、看護師は「患者の多様性に注目して対応する」ことを求められます。このことは、入学直後の段階から繰り返し語られるものですが、実際、患者を含む家族の多様性にどこまで踏み込んだ教育を受けているのでしょうか。教員はその多様性を十分意識して学生に接しているのでしょうか。

今回の特集は、患者はもちろん、学生自身そして教員自身の家族が多様性(ダイバーシティ)をもつことを前提として教育にあたっていただくための、呼び水になればと願って組みました。家族の多様化で概念に変化が生まれるであろう「母性」「小児」「老年」に注目して、提言をいただきましたが、もちろんすべての領域にかかわるテーマです。今までの家族の“標準”にとらわれない柔軟な思考をもつ教員が増えることを期待しています。